

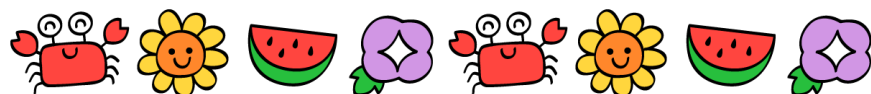
# りんごだより

草笛学園 2025年 (9月号)



まだまだ暑い日が続いています。田んぼも少しずつ色づき始め、朝夕も少しだけ過ごしやすく始めました。ですが、お昼はまだまだ油断できない気温です。しっかりとお休みを取りながら、元気いっぱい遊べたらと思います。

九月は『みにうんどうかい』を予定しています。あそびとは少し違った活動の中で、子どもたちの色々な様子が見られたらと思います。



## 『光輝<力>』

「できたかーできないか」の「二分的評価」をするようになると、結果で悩むだけではなく、「できなかった」事実を積み重ねながら、だんだん苦手意識を持つようになってきます、あらかじめ「できるかーできないか」、「得意かー苦手か」を考えてしまうのです。だから、「リズム」と聞いただけで、緊張してしまう子どももいることでしょう。「粘土」と聞いたただけで、どこかに隠れてしまいたくなる子どももいることでしょう。しかし、この時期の子どもたちが素晴らしいのは、だからといって身を隠してしまうような後ろ向きな態度はとらないということです。そのために、少々嫌そうでも、とにかくさせてしまうこともあるのですが…。しかし「二分的評価」によってつくられてくる苦手意識をいつまでもひきずってはいは、自分を見る目が変化していきません。そして、いつも「リズム」と聞いただけで緊張しているようでは、自分の世界を広げていくことはできないでしょう。「リズム」と聞いただけで、ホールへ入るのを尻込みしてしまうような子どもにたいして、どう心を支えてあげたらよいのでしょうか。私は、ことばひとつが大切だと思っています。「〇〇ちゃん、リズム嫌なのか、でもトンボさん、ほんとのトンボさんのお羽のようにできるね、あんなにじょうずにトンボさんできるんだもん、きっと他のリズムもじょうずだよ、今日は、トンボさんから始めるから、〇〇ちゃんも先生といっしょにリズムしようね」と言われると、それまでリズム

と聞いただけで真っ暗な世界にいる気持ちだったけれども、ちょっと光がさしたような安堵感が生まれることでしょう。実際に、得意なトンボからはじめたら、後のリズムあそびもがんばって挑戦してくれるようになりました。苦手なことがあってもどの子にも光り輝くことがあります。この輝きをていねいに見出してあげることがおとなのしごとですね。そうやって、子どもは、おとなのまなざしのなかで一步一步「二分的評価」の苦しみから抜け出していけるようになるのです。

参考文献：『発達の手 上』 著：白石正久

次のりんご教室は…

りんご教室①… 9月2日(火) 9:20~11:15

→『だんぼーるすべり』を行います

◎持って来るもの：水筒・シューズ・必要に応じて着替え・タオル

りんご教室②… 9月16日(火) 9:20~11:15

→『みにうんどうかい』を行います

◎持って来るもの：水筒・シューズ・必要に応じて着替え・タオル

※保護者の方も動きやすい服装をお願いします

※参加費100円頂きます。(みにうんどうかいの参加賞としておやつを用意しています。)

参加される皆様へ』 ~ご協力をお願いします~

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・参加費はありません。制作や、クッキングなどの活動の時には材料費として100円いただきます。その都度連絡いたします
- ・活動は主に、草笛学園遊戯室での活動となります
- ・水分補給のため、お茶を用意して下さい(ジュース類は控えてください)
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前にご相談ください
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください